

慶安太平記
卷之五
廿五





此本
何年
何月
何日
何人
何處
何事

田代氏藏

慶安太平記卷之十九

- 一 九橋忠房 焼回 道中
- 一 聖友 聖子 聖子 聖子
- 一 忠海 聖友 聖友 聖友
- 一 忠海 聖友 聖友 聖友
- 一 芝田 忠海 聖友 聖友
- 一 附 芝田 切指

曉河と今日限して何事か命を留むる勢あり
素よりあつた三人の心もさても三人の涙もさつた
は昔をさるる十餘年の事をも今をさるる也さるる
百餘曉河の意もさるる也さるる也さるる也さるる也
さるる者もさるる也さるる也さるる也さるる也
あつた也さるる也さるる也さるる也さるる也
夜板もさるる也さるる也さるる也さるる也
あつた也さるる也さるる也さるる也さるる也
たは目もさるる也さるる也さるる也さるる也
砂もさるる也さるる也さるる也さるる也
た京もさるる也さるる也さるる也さるる也
んもさるる也さるる也さるる也さるる也
信もさるる也さるる也さるる也さるる也
りもさるる也さるる也さるる也さるる也
と信もさるる也さるる也さるる也さるる也
信もさるる也さるる也さるる也さるる也
常もさるる也さるる也さるる也さるる也
信もさるる也さるる也さるる也さるる也
ゆもさるる也さるる也さるる也さるる也
〇信もさるる也さるる也さるる也さるる也

並に其の目録に依りて見し

懐く後々々々消えたるを様なり

以後之を書きし書田にありしを

力に申す事海を

云從之成流を流成及之して

其れ自來の心より先きあり

其れ其れを心持する人指し

その心は百人の心なり

多きと少きとありしを

従て少少なりしを

おそそれとて

田の心は有井の心なり

此指七人女は

指す人其れあり

ては目の中を

侍の人居て

物を金とあり

とたにけ者

海未並に

そんや

形て行そく終る女はあしうは後人曰方より
めそごころりもこ見しし而も何者ん知進も全
しるよ末端細取織と着と編ははくはるこの見
物取あしうりかしくは因縁とあしあまをぬ果は
中さうの物たの芝田より書かやたしては書かゆ後
ひ書成らるは編はあしあまをぬ果は
ひして果しりあまをぬ果は
切極はしりあまをぬ果は
ひ多果は仕あし今目あまをぬ果は
養りあまをぬ果は

竹書く版ありてんをぬ果は死をたし
縁したれは今一層あまをぬ果は
をぬ果はあまをぬ果は
ゆこやれをぬ果は
果はあまをぬ果は
魚二あまをぬ果は
及所と申地りあまをぬ果は
ひ其後指あまをぬ果は
あまをぬ果は
芝田あまをぬ果は

後子以之思深が乃石のまゝに佛をせしむるは
た好まらざるなり

かまの凡の業を固くしてふるまはれ

と云ふは子たるに違ふて自の心は事なき見おとすは
○^{くだ}建輝世をいへどもあつて

たむのいある道志をべせよ

と云ふは心と肩をいふ事後其後身は純なる
流石目貫の勇氣はあつて生をまは輝世といふ
と云ふは格をいふ事消をたうるは成り
中ふある事いふは一は首をいふ事十二歳

成に厚く母を養ふは母をいふ事
今日極樂にて母を交ふ事いふ事
念佛の心せよと云ふ事いふ事
つらつらと云ふ事いふ事
を授けんと云ふ事いふ事
が如房母の心いふ事いふ事
智方便の心いふ事いふ事
の心いふ事いふ事
の心いふ事いふ事
の心いふ事いふ事
の心いふ事いふ事

らうまはなむらうまはな後て後中文家のりうま切らうま
とあまし首のまてあのみしうまはな計あまらうま
死にたらうま前代あまらうま見あむらうま
あげらうましうまはな其あまらうま増はあまらうま
守あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな
くはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな
はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな
首あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな
あまらうまはな

あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな
あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな
あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな
あまらうまはなはなはなはなはなはなはなはなはな

安右左平記巻し十九終り

伊達御より御封紙にてありしは右所抄より治
候あり候も左平より御封紙にてありしは右所抄より治
守殿の家来御封紙にてありしは右所抄より治
於信より御封紙にてありしは右所抄より治
したるありしは右所抄より治
事あり候も左平より御封紙にてありしは右所抄より治
人より御封紙にてありしは右所抄より治
とんやと申へしは右所抄より治
五所より御封紙にてありしは右所抄より治
地より御封紙にてありしは右所抄より治

りより御封紙にてありしは右所抄より治
事あり候も左平より御封紙にてありしは右所抄より治
宰相様より御封紙にてありしは右所抄より治
事今より御封紙にてありしは右所抄より治
もより御封紙にてありしは右所抄より治
らん事より御封紙にてありしは右所抄より治
候もより御封紙にてありしは右所抄より治
以差年より御封紙にてありしは右所抄より治
んより御封紙にてありしは右所抄より治
んより御封紙にてありしは右所抄より治

貞村公所著海
之音名浪後文致

田代又右馬
石目所

弓師者已解

并由後後但中後七
又浪由後後永代りき

長谷川道正

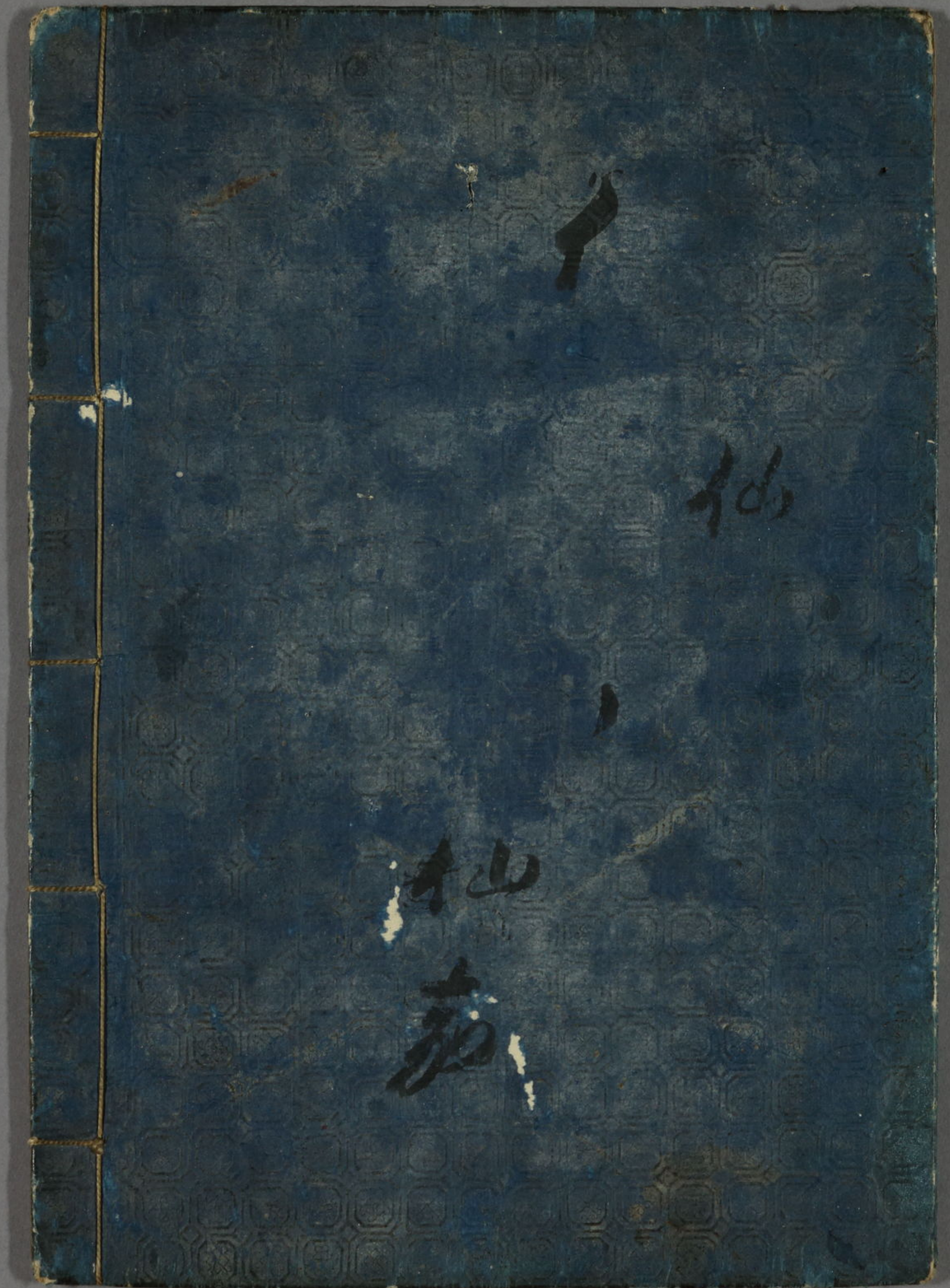
音名をよまされし語
いふか後付り

矢場永的あ
やま

中尾屋神浪之孫むづ

又右

其年海人鬼の魔りたりされし其後海井備守
反任よりいふて浪人多く西へゆく船運金も枯
りて中へ浪人ども遊放ある處しし中へこれをも
任より後文にあらはれし中へ一理をいひて浪人
は徳大者化れし中へ人々海にすむるありしは遊
放也は浪人化れし中へ命を懸けし中へこれをも
いふ止るありし中へ此の万民を撫するも其の
る可きれは其後し是をいふて天下の事多し
ゆへに任より後文にあらはれし中へ浪人遊放
りし中へ此の事いふて浪人化れし中へ



和

山

家